

実績報告 ～畑中がやってきたこと～

「市民の声は届かない？」

いいえ、私は報告会やポスティング、Facebookなどのあらゆるツールを駆使して、市民の声を政策へと転換し続けてきました。そんな4年間の誇りある実績です。

※議員には執行権がありません。市議が提案する政策は市役所職員や他の議員の理解があればこそ実現できることも合わせてご理解ください。

議員定数の削減

高志会（松本議員と2人会派）と議員有志で「**2名削減**」を提案し、議案の提案説明を畑中が担当。しかし、9か月にも及ぶ激論の末、「**1名削減**」を議員全員で共同提案することで決着を迎える。

結実するための努力を思い返すと忸怩たる思いだが、これも民主的決着。しかし、**今後も少数精鋭の議会**を目指していきたい。

育児休暇中における継続保育の延長

例えば、兄が保育所入所中で妹が生まれ育児休暇を取得した場合、1年間で妹の入所する保育所を見つけないと兄まで退所せざるを得なかった（育休期間終了により保育に欠けるとみなされないため）。

この「見えない待機児童」を解消すべく「**1年間**」という要件を、比較的入所しやすくなる「**1年間+当該年度の3月末日**」まで延長するよう提案、現在では提案どおり実行されている。

出生届けのワンストップ化

産褥期（床上げ期間）に出生届けやその他の関係書類を提出するのに最低でも4つの窓口を回らないといけない現状は、産後間もない母親からすれば「子育てにやさしい街」とは到底言えない状態。

郵送での提出の簡素化、そして出生届けを提出した際に**全ての提出が処理できるワンストップ化**を提案。現在、行政が鋭意検討中。

ファシリティマネジメントの導入

行政のハコモノ管理は民間のそれと較べて実にいい加減。**いっごろ老朽化するからいつまでに修繕し、それに対する費用の積立が全くされていない**のが実情。老朽化した施設が補修できずに閉鎖という憂き目を見るのは、その所以。

まずは全ての公共施設の耐用年数、修繕時期、それに要する費用の積算をおこない、計画を策定するファシリティマネジメントをおこなう必要性を強く要望。今後も厳しく追及する。

政策提案 ～畑中がやりたいこと～

これから必要と思われる主な政策提案。

どの提案も皆さんの願いを受け止め、私が政策へと創り上げた者たちです。

どの政策も皆さんと私との「高石への願い」です。

人口減少対策への更なる提案

今までもマーケティングの必要性や高石市の既存サービスのPR不足など、人口問題の尖兵として取り組んできた。

これからも**人口問題を専門的に扱うセクションの創設**（機構改革）、文教都市としての**子育て環境の充実**を全力で取り組む予定。

なかでも、他市が「取り組んでない、真似できない」差別化を図ることが肝要。

保護者同士が気軽に交流できる場所を

子育て環境のなかでも「親同士が気軽に交流できる場所」の提供は、核家族化の増加、虐待防止の観点からもその必要性が年々高まっている。

既存の公共施設を活用し**小型児童館的な役割を担える拠点作り**に力を入れていきたい。

人口減少問題から考えても、子育て世代の流入の呼び水となる可能性が高い子育て支援施策の充実に注力したい。

教育環境の再整備

通学校区の再編はもちろんのこと、公立幼稚園の授業料や少子化の影響を鑑み、環境整備を検討する必要性に迫られている。抜本的な教育環境の再整備をおこなうためには、**早い段階での検討、そして保護者や市民を巻き込んが意思形成の過程**が絶対に必要。

後手に回らずに、「準備は長く、実施は短く」の原則に従って要望を続けたい。

既にある制度・事業の効率的運用

新しい取り組みやアイデアも必要だが、現在運用されているサービスをもっと効率的に運用するよう取り組むのも大事。

例えば、両親が居住している高石市に新たに住居を構えた場合、固定資産税が半額になる2・3世帯同居等支援事業は明らかに周知不足。**せっかくの有意義な事業を効率的に展開できないようでは、税金のムダ**。既存の制度や事業が最大効率となるよう現場から生まれる問題意識をもって指摘を続ける。